

会 議 録

☐ 全部記録 ☒ 要点記録

1 会 議 名	令和 6 年度 第 3 回 姫路市総合教育会議
2 開催日時	令和 6 年 8 月 29 日（木）14 時～15 時
3 開催場所	姫路市役所北別館 2 階 中会議室
4 出席者又は欠席者名	〔構成員〕 清元市長、久保田教育長、中野教育長職務代理者、山下教育委員、森下教育委員、 角谷教育委員 〔関係者〕 山田副市長、加藤総合教育監、福田政策局長、平田教育次長、平山教育次長 〔事務局〕 高等教育室：高橋室長、中田主幹、篠原課長補佐、黒川主任 教育委員会事務局：松本教育総務部長、山下教育企画室長、濱田総務課長、藤保教育企画室主幹、 宮崎教育企画室主幹、島田総務課係長、松井学校指導課管理指導主事、吉川教育企画室指導主事
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴人 8 名
6 議題又は案件及び結論等	姫路市教育大綱の改定について 市立高校 3 校の再編統合に向けて
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

総合教育監	1 開会 令和6年度第3回姫路市総合教育会議を開会する。
市長	2 挨拶 (市長挨拶) 先日、姫路市立高校メッセがアクリエひめじにて開催されたところである。人口減少社会において、子供たちの未来へしっかりとした姫路らしさを残すためにも、こういったメッセが機運の醸成にもつながればと思う。 本日の議題は「姫路市教育大綱の改定について」及び「市立高校3校の再編統合に向けて」である。 ちょうど3年前の令和3年8月の総合教育会議において、市立高等学校の在り方について議論いただき、地域に必要な人材を地域で育てることの重要性等について、貴重なご意見をいただいた。約1年7か月後の開校に向けて、教育委員会事務局において具体的に準備を進めているところであるが、本日は、これまで検討されてきた経緯を踏まえつつ、さまざまな視点、角度から委員の皆様のご意見を賜りたい。 また、第1回総合教育会議でも話したが、令和2年に現行の教育大綱を策定してから、さらに人口減少が加速し、世界では戦争・紛争が絶えず、国際社会が混迷している。我々を取り巻く環境が大きく変化している中で、この令和の時代とその先に続く時代を乗り切る力を子供たちがつかみ取っていく、そのための教育大綱を皆様に考えていただきたい。現在進めている教育振興基本計画及びこども計画の策定に合わせて、本市の教育の根本の方針である教育大綱についても、ご助言・ご提言を賜りたい。 皆様方からいただいたご意見については積極的に検討し、市議会とも協働しながらさまざまな事業を進めていきたい。
教育長	(教育長挨拶) 新市立高等学校の設置については、令和4年2月に姫路市立高等学校在り方審議会より、市立3校を1校に統合する答申を受け、その後旧中央卸売市場跡地に移転することを発表している。また、目指す学校像としては、市民から親しまれ、地域のリーダー校として豊かな学びを実現するために進化し続ける学校、目指す生徒像としては、社会の中で活躍しようとする志を持ち、しなやかにその実現を目指す掲げている。 このたび、新設校について校名の募集を行い、合計で792件の応募をいただいている。8月26日に開催した「もっと知りたい姫路市立高等学校メッセ」には、中学生や保護者の皆様方など1,360名が参加され、改めて市民の皆様から大きな注目を浴びていることを感じている。今後は、現在の市立高校のこと、新しい学校の校名や学びの内容について、決定したことから積極的に発信していきたいと考えている。本日は、市立高校がどうなるとさらにどう良くなっていくのか、広い視野でのご意見を賜りたい。
総合教育監	3 出席者紹介
委員	4 議事 (1) 姫路市教育大綱の改定について 資料1「姫路市教育大綱の改定について」説明 総合教育会議の議題となるのは、11月だけか。

総合教育監	充実した議論を内部で重ね、良いタイミングで教育委員の皆様とも共有させていただく。総合教育会議では、基本的には現行の大綱を策定したプロセスと同じく、中身の改定案の議論として1回、パブコメを経た後の修正案の議論として1回の、計2回を予定している。
市長	教育というのは急ハンドルを切るのは難しいと思う。このスケジュールをもとに、現行の教育大綱を委員の皆様にもう一度しっかりと見直していただき、変えてはいけない部分と、時代に応じて変わらなくてはならない部分を考えていただく。その上でしっかりと意見を出していただき、それを素案につなげていきたい。総合教育会議でもう一回議論したいということであれば、スケジュールが少し後ろにずれても良いのではないかなと思う。スケジュールを決めてしまうと、それが足かせになるかもしれないが、とはいえスケジュールが明示されないと、意見を出しそびれてしまうこともあり得る。まずは、このスケジュールで進めたい。 (2) 市立高校3校の再編統合に向けて
教育次長	資料2「市立高校3校の再編統合に向けて」説明
総合教育監	資料3「議題にかかる論点メモ」説明
市長	まず、姫路を愛する人をたくさん育てたい。私自身、海外や東北、さまざまな場所で仕事をしたが、こうして故郷に帰って仕事ができることを大変嬉しく思っている。どこの国、どこの地方に行こうとも、根っこは姫路にあって、姫路という素晴らしい町で生まれ育ったことを誇りに思う、いつかは姫路に戻ってお世話になった方々に感謝を返したいと思う、そんな子供たちを育てる学び舎としたい。 また、姫路市は播磨の連携中枢都市であり、兵庫県、特に西兵庫全体をリードしていくような子供たちが通える場を目指したい。野球やサッカー、音楽、芸術などで国際的に活躍したいと考える生徒は、京阪神や全国の有名校に進学している。さまざまな分野の頂点を目指すための第1歩としての受け皿が、この地域にはないと思う。一流の芸術家・プロスポーツ選手だけでなく、多様な文化を次の世代に教える教員を目指す生徒にとっても、芸術大学や体育大学を受験するためのシステムが必要である。私が手柄地区に新設する方針を表明したのは、姫路だけでなく、播磨、西兵庫からも通学のしやすい場所に、多様な学びを提供する学校が必要という考えからである。新設校では、さまざまな学びが実現できると良いと思う。
教育長	姫路を愛する人という点であるが、姫路市立高校メッセで3校の生徒とのトークセッションがあり、その中で、どの生徒も、市民、地域、先生との距離の近さが魅力であるということをお話していて、本当に顔の見える付き合いをしながら学んでいる、生徒自身がまち全体に支えてもらっていることを実感しているという印象を受けた。こういった市立高校ならではの良さを必ず残していかなければならない。 次に地域のリーダー校という点について、これは目指す学校像にも掲げているが、何を守り、リーダー校として何を変えていくのか、そのバランスの取り方がこれからとても重要になってくると思う。リーダー校になるために急に100歩先を行ってはいけない、でも、将来を見据えて、半歩ないしは一歩先にあり続けなくてはならないと思う。 姫路を愛する人の育成は守っていくこと、一方で、変えていく部分は、リーダー校としての一歩先の学びをどのように提供できるのかということ。ぜひ皆様からお知恵をいただきたい。

委員	学びというのは、試験のために覚えても身に付かない。興味があることに対しては、もっと知りたい、学びたい、体験したいとなる。新設校は、単位制として、取りたい授業、学びたい科目を自分で組み上げる、自由度の高いカリキュラムが良いと思う。クラスの違う生徒がさまざまな授業で入り交じり、交流することで、色々な刺激もあると思う。 また、教育は、知識をもとに、考え、判断し、行動する力、自立し、協調しながら社会で生きていく力をつけることである。民間企業、学術系やスポーツ、芸術関係の団体、士業等、さまざまな職業の方の話を聞く機会、仕事を見学する機会を持ち、自分も将来何になりたいのか、どういう仕事をして社会に貢献したいのかということを考える経験が重要であると思う。 多様性を認めるという点では、「とにかく東大に行ってこんな研究がしたい」という生徒には特進クラスがあっても良いと思う。また、1年遅れや20歳代の生徒が普通に受け入れられるクラスがあっても良いのではないかな。リーダー教育もぜひ取り入れていただきたい。その中で、自分はリーダーではなく、サブでリーダーをサポートする役割が合っていることに気付く生徒もいるだろう。 姫路を愛する人の育成については、例えば姉妹都市の松本市や鳥取市などで2週間のホームステイをしながら、その地域の学校に通うという体験をすると、姫路の良さに気付いたり、そのまちの良いところを姫路でどうやって取り入れたらよいのかを考える機会になったりするのではないかな。
市長	琴丘高校の修学旅行は体験型で、事前に沖縄の製品を調べ、見本市でポップをつくって販売促進に協力し、かき氷屋、陶器屋、そば屋などの現場で働く姿に触れ、それらを1冊の本にまとめてガイドブックを作ったと聞いている。例えば松本市で音楽コースの生徒が小澤征爾さんの音楽イベントを地元の方と盛り上げるとか、松江市や鳥取市で城や寺の保存事業に対する考え方について学ぶとか、ホームステイや体験型研修旅行などをカリキュラム化するのも非常におもしろいと思う。
総合教育監	琴丘高校の修学旅行については、先日のメッセでプレゼンテーションがあった。沖縄の物産展で、地域の方々や姫路の方々とも協力して実施したこと、修学旅行から帰ってきてから振り返って学びを冊子の形にしていることは大変すばらしい取り組みだと思った。外部の皆さんと連携しながら、高校生たちの学びが深まっていると感じた。
委員	姫路地域、播磨地域の魅力について考えると、生徒が地場産業に携わっている方たちと触れ合い、実際に体験するカリキュラムを取り入れると良いのではないかな。地場産業がどう引き継がれ、どう進められているかということを経験することは、姫路を愛する人の育成につながると考える。
委員	姫路は昔から「鉄のまち」であり、世界で活躍している大企業の本社がいくつもある。姫路に根差した企業に協力を求め、社員が高校に来て話をするとか、生徒が工場見学に行くなどのプログラムがあればよいのではないかな。「姫路にはこんなすごい会社がある」「工学部に行ってこういった専門分野を学びたい」など、自分の将来について考えることにつながる。姫路の産業を守っていく、発展させていくことは、まさに姫路への恩返しになる。
委員	企業の方、地域のさまざまな方に入ってもらい、学校の様子を見ている、みんなが参画している、地域に開放されているという空気が、不登校の生徒や、伸び悩んでいる生徒にとって助けになることもあるのではないかな。 現在、飾磨高校とこども園で交流をしているが、大きい反響がある。こども園か

	ら大学までつなげられたらと思う。推薦枠を設けてスムーズに入学できるなど、県立大学と高校をつなぐことはできないか。 高校なので、ある程度、学力は保証しないとイケない。学力を保証しながら、その学校がどんな個性を持つのかというところが重要である。あれもこれもと広げるとどれも手つかずになってしまうので、個性を絞って打ち出す。その個性をしっかりと発信しながら、3校の良いところをコーディネートする人、道しるべを示す人を配置して進めていくと良いと思う。 姫路市内だけでなく個性の光る子を受け入れて育ち合う刺激し合うことも大切ではないか。
総合教育監	飾磨高校とこども園との交流は、具体的にはどういうものか。
委員	飾磨高校には健康福祉コースがあり、生徒と子供たちがこども園で遊んだり、触れ合ったりするなどの交流をしている。「飾磨高校の健康福祉コースの目玉になっている」とも聞く。受け入れている保育士の方も、生徒たちから学ぶことが多い。
市長	健康福祉コースの生徒が保育園と交流することで、例えば「将来は養護教諭になりたい」など、自分の進む方向性が見えると、学びのモチベーションになると思う。中学のトライやるウィークで働くことの尊さを学び、加えて高校では実習などを通して自分には何が向いているのかということが分かり、「水素の科学者になりたい」「脱炭素社会に貢献したい」「弁護士や裁判官になりたい」「医療従事者になりたい」など、目的をもって頑張ろうと思えば、そこからどんどんその分野の単位をとると思う。単位制のメリットを生かせるような地域連携ができれば良いと思う。
教育長	皆さんの話を聞いて、幼稚園から高校までの縦のつながりはとても大切だと改めて思った。また、横のつながりについても、ぜひ市長と副市長にお願いしたい。単位制による多様な学びを充実させるために民間の力を入れていく開かれた学校づくりというのはとても重要であり、実社会を経験した方々が学校の中に入ってくことは強みである。学校、地域、人の近さという魅力をより生かせるような仕組みを一緒につくっていただけると、市立高校の大きな魅力になると思う。
副市長	播磨の魅力は重要なキーワードであり、この地域で市立高校を続けることの意味をしっかりと考えていきたい。グローバル社会における地域愛の大切さについては私もつくづく感じている。企業とのつながりや、市長部局、教育委員会が持つ地域とのネットワークをもとに、さまざまな教育プログラムを作ることができると思う。国内留学も非常に良いと思う。新しい学校づくりにおいては、具体的な進路へのつながりをしっかりと意識しなければいけないと感じている。
市長	リベラルアーツは非常に重要であり、力を入れてほしいと考えているが、グローバル教育もリベラルアーツの中に含まれているのではないかなと思う。琴丘高校に国際文化科があるが、限られた授業の中だけではなかなか英語は上達しない。今は翻訳ツールが非常に進化しており、通訳無しで簡単な会話ができる。言語よりも教養を身につけて、国際的に自分の意見を言える人が、本当に仕事ができる人なのではないか。ICT技術を駆使して海外へ出られる、受け入れる、そういう形のグローバル教育を進めたい。
政策局長	高校生と企業との関わりについて、グローバル企業を通すと、企業を通してグローバルの世界が見える、地域の企業を通すと地域が見えるので、市長部局もしっかりと連携して取り組みたい。

教育次長	本日のご意見、ご議論の内容をしっかりと踏まえて、今後、検討や準備を進めてまいりたい。
教育次長	先日のメッセの中で、生徒たちが「自分の学校が大好きなんだ」ということをさまざまな場で発信していた。新市立高校も、生徒たちがそう言えるような学校づくりに励んでいきたい。
委員	文系・理系という分け方はずっと続くものなのか。単位制では、より具体的に分かれて学べる方が良いと思うが、受験制度のこともあり、文系・理系という分け方が良いのか。
教育長	今は「学際的な学び」といって、文系・理系の枠を超えたものにしなければいけないという考えに変わりつつある。受験制度の方向性次第だが、高校での文理選択の考え方も変わってくるとは思う。
市長	受験も複合的で、英語の入試問題でも、読解力と科学的知識を問うようなものになりつつある。ただ、やはり専門的な大学に進学してほしいという保護者の気持ちもある。単位制では、「あなたの目指している大学や職種にはこの科目は絶対不可欠である」といったことについて親身になって指導するナビゲーターが必要なのではないか。
教育長	キャリアセンターの設置がまさにそこにつながると思う。多様な学びの場では、悩み、迷ってしまうケースもあると思うので、やりたいことを見つけた生徒のその先をどうナビゲートしていくのかという部分がとても重要である。
総合教育監	5 その他 次回の会議は、11月に開催する。
総合教育監	6 閉会 令和6年度第3回姫路市総合教育会議を閉会する。